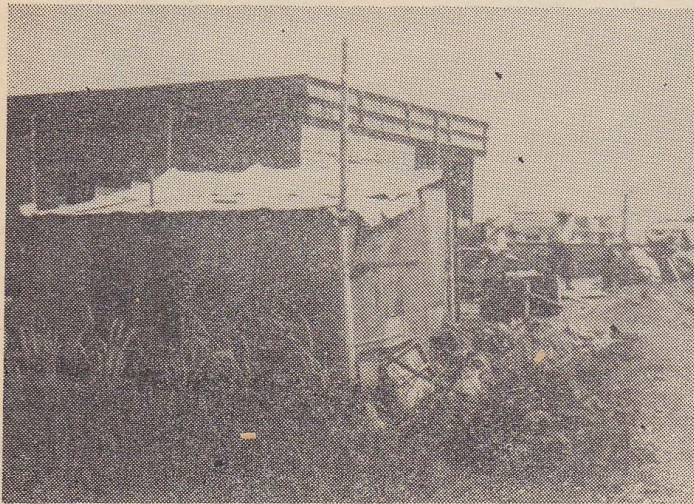


# 地下資源開発の副産物

## — 沼館に温泉が —



沼館部落の入口に湯がフキ出した、これは、銅鉱床を探そうとボーリングをおろしたところ間違っ？湯がフキ出したもので、沼館の方々は、驚ろくやら、うれしがるやら——

お湯は毎分200ℓも出るし、温度は40度という適温であり、沼館の方々は、この湯を捨てることはもったいないと、写真のような、りっぱな浴場を建て、将来の大温泉郷の建設を夢みている。

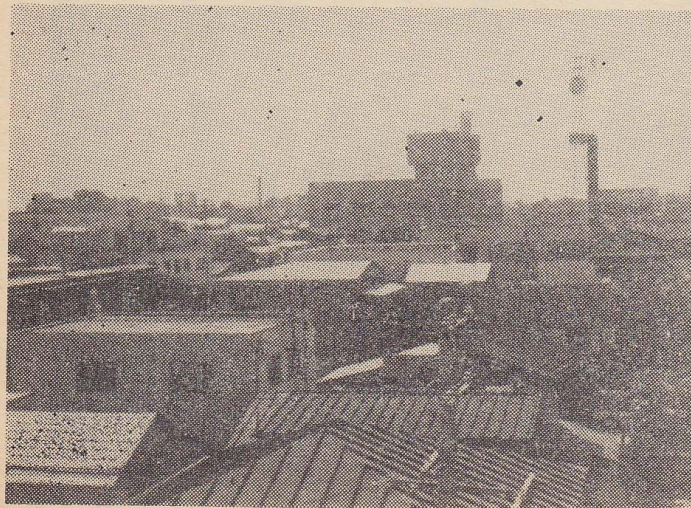
いつかは、沼館の親せきをたよって湯治に出かける人もふえそうで、沼館ではうれしい悲鳴をあげている。

## 大館一のビル

### まもなく完成

大館電報電話局が、電話の自動化に伴なって新築している局舎は、間もなく完成します。いまでは、その外観もでき、道行く人々はビルの大きさに驚きの目をみはっている。

ビルの頂上？は、なんと、地上32メートルという高さで消防署の望楼より5メートルほど高く、これが完成すると、大館にまた一つ名物がふえることになり、その完成が待たれます。  
(写真・高々とそびえたつ電話局局舎)



## 活躍する

### 「山館環境衛生班」

市内山館青年会では、昭和34年から青年会の事業の1つとして、薬剤散布による、カ、ハエの駆除を実施している。

毎月、8の日を衛生デーと定め、青年会の自己負担と、部落の各家々から1回につき30円をあつめたお金で薬を買い、環境衛生の充実のためには、常に労力奉仕を惜しまない青年たちばかりです。

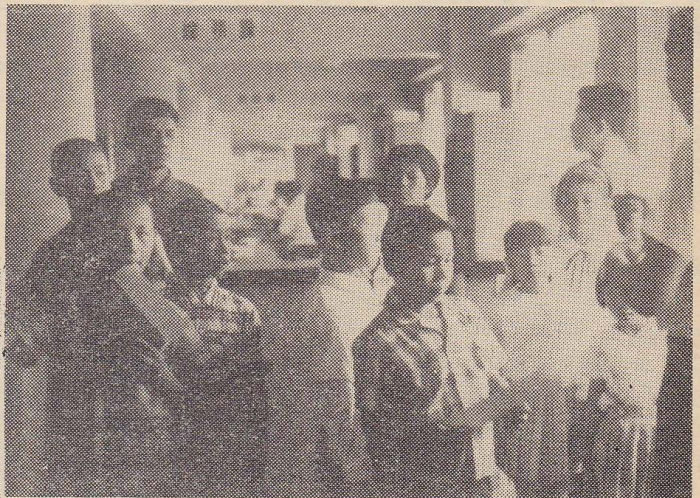
いまでは、青年たちの善行もみり、山館部落には、カやハエがほとんどいなくなり、地域の発展に寄与している青年たちの行動が大きな話題になっている。

(写真・早朝から出動する衛生班)



## 大館青年会議所で

### 萱草分校生徒を招く



大館青年会議所では、一昨年からの、事業の一環として、めぐまれないへき地の子どもたちを大館市に招き、市内の官公署や十和田湖などを見学させている。ことしは、去る7月29日、阿仁合小学校の萱草分校(生徒13名に先生が1人の分校)の生徒を招待し、子どもたちから大変よろこばれました。

(写真・市役所を見学に来た子どもたち)